

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立大村小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒440-0081

愛知県豊橋市大村町地之神9

E-mail oomura-e@toyohashi.ed.jp

Website http://www.oomura-e.toyohashi.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 95名 女子 108名 合計 203名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「地域に目を向ける」を活動テーマとして、ESDを子どもたちが将来社会に出たときに生きていく教育と捉え、ESDの実践を通して「他者を思いやる心の育成」を目標とした。

具体的には、福祉、環境を柱に、①老人介護施設の人々に係わる活動、②豊川流域の水質調査に係わる活動を行った。

① 老人介護施設の人々に係わる活動

初めて、老人介護施設「みのり」を訪問した子どもたちは、最初緊張気味だったが、職員の方のお話を聞いたり、お年寄りとおふれあったりするうちに、にこやかにお年寄りと接する姿が見られるようになった。訪問を通して、子どもたちは、お年寄りによって困り感が違い、職員の方が一人一人に合わせた介護をしていることに気づくことができた。2度目の「みのり」への訪問では、運動会で行ったソーラン踊りを披露した。お年寄りから拍手をもらった子どもたちは、「喜んでもらえてうれしかった。もっとお年寄りの方を楽しませてあげたい。」と感想をもった。

何度か「みのり」への訪問をした子どもたちは、自分たちでお年寄りを楽しませようと、事前に学校でゲーム等を企画した。企画をする中で、お年寄りがどうやったら心から楽しんでくれるかという観点で話し合いをする姿が見られるようになった。「みのり」では、考えてきたゲームを進行しながら、お年寄りを楽しませようとした。お年寄りが笑顔で楽しんでくれる様子を見て、充実感を味わっていた。

お年寄りとのふれあいを通して、お年寄りの幸せについて考えるようになり、他人ごとではなく、自分たちにできることを考えられるようになってきた。



【ソーラン踊りを披露したよ】



【お年寄りの方が楽しんでくれるゲームを考えたいよ】

② 豊川流域の水質調査に係わる活動

本校、設楽町立清嶺小学校、新城市立舟着小学校の3校の4年生の子どもたちが集まり、6月に、豊川下流の水質調査を行った。国土交通省の職員から、水生生物調査の方法について説明を受け後、子どもたちは豊川に入り、川底にいる水生生物を集める活動を行った。説明を受けた生物が本当にいるのか疑問に思っていた子どもたちだったが、実際に網や容器ですくってみると、小さい生物がたくさん入っていることに気づき、「あっ、いたー！」と歓声が上がった。

子どもたちは、水から上がり、集めた水生生物をトレーに並べ、水生生物一覧のシートを見ながら、生物の種類を調べていった。「この虫だ!」、「この生き物が多いなー。」等、つぶやきの声がたくさんあがった。今までじっくり観察したことがなかった川の中に、こんなにもたくさんの生物がいることに、子どもたちは驚いていた。今回の水質調査の結果から、改めて豊川がきれいな川であることを知り、「豊川をきれいにしていきたいと思った。」と感想を書くなど、将来に渡って豊川をきれいに保っていこうという意識をもつことができた。



【あついたらー!】



【こんなにたくさん生物がいるんだね】

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 (農園活動)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

福祉教育では、年間を通して6年生の総合的な学習の教育課程に位置付けている。豊川水生生物調査では、年間を通して、4年生の総合的な学習や理科の教育課程に位置付けている。また、全学年に渡って、防災や農園活動を、総合的な学習、生活科、学級活動等の教育課程に位置付けている。委員会活動の時間にも活動を行っている。

指導内容については、担任の判断に任されている部分が多く、あいまいな部分が多い。また、指導方法については、前年度の反省をもとに、よりよい教育活動になるよう、次年度に工夫改善をしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

防災教育では、地域の健全育成会の方々を中心として、校区自主防災訓練を休日に実施している。教頭が窓口となり、学校と地域が連携して活動を行うことにより、組織的にかつ継続的に取り組める体制を整えている。

農園活動では、地域から農園ボランティアを募り、その方々と学校が協力して子どもたちの指導にあたっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

児童、保護者、教職員に向けて、1年間の教育活動についてのアンケートを実施している。また、その成果や課題について、学校評議員の方々に提示して意見をいただいている。

教育活動が子どもたちの将来的な人間力の向上につながっていることは成果としてあげられたが、小さな校区の小規模校であるためか、地域でありさつができない等、外の世界とのつながりの弱さが課題として見られた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本年度、豊橋市では、ESDの全国大会が開催されたので、本校からも、ESD教育の事例をポスターにして提出し、大会当日に掲載していただいた。また、そのポスターを校内にも掲示し、子どもたちや保護者が、学校としての活動に目が向けられるようにした。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

特に連携をしていない。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

特に交流をしていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

教育活動としては行っているが、ユネスコスクールやESDの活動としての意識が本校の職員には薄いので、具体的な効果や変化についてはあまり見られていない。今後、全職員に少しずつ浸透していかねばいけないと感じている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

6年生の福祉教育、4年生の水生物調査、全校体制での農園活動や地域防災訓練等を平成30年度も継続し、子どもたちが他者や地域等、より外の世界に対しても目が向けられるように工夫し、将来に渡って生きる力となるように活動をしていきたい。